

「山形県立図書館運営基本プラン2025」策定に寄せて

新型コロナウイルス感染症の拡大による全国一斉休校から2年が経ちました。この間、未知のウイルスに対する社会の経験値が上がり、「歩みを止めず、今できることを」という姿勢で物事が動いていることを感じる今日この頃です。県立図書館をはじめ、市町村図書館や学校図書館でも、歩みを止めず様々なご苦勞を重ねて、利用者サービスにあたられていることと拝察いたします。

県立図書館は、約2年にわたる大規模改修工事を経て、令和2年(2020年)2月1日にリニューアルオープンしています。乳幼児からご高齢の方まで、来館者が心地よく過ごせる空間ができあがりましたので、これからはその機能を上手に使うって運営していくことが重要になります。

県図書館協議会では、この運営の基本となる計画を作り上げるため、各委員がお持ちの知見を活かして、様々な視点から議論を重ねてまいりました。

具体的には、リニューアルされた県立図書館の「場」の魅力を最大限にするための議論を中心に進めつつ、「来たくとも来ることができない」という状況に置かれた来館者へ県立図書館が何を出来るのか、社会の変化に即応した取り組みや次代を見据えた取り組みへの議論が活発に行われました。

また単に「待ち」の姿勢ではなく県全域を意識した、戦略的な情報発信や県立図書館から県内図書館へ出向き、利用者カードを作成するサービス等への議論が行われました。県内図書館と県立図書館の連携により、ますます県民の皆さんに図書館サービスが行き渡ることを願います。

2025年に向けて、県民の皆さん一人ひとりの学びや成長に貢献するとともに、地域に賑わいをもたらす県立図書館の姿、「ときめく」、「たよれる」、「つながり・ひろがる」図書館像が描けたのではないかと考えております。

令和4年3月

山形県図書館協議会

委員長 北口己津子